

# て あぶり がた ど き 手焙形土器

調査：十六面・薬王寺遺跡 第11次調査

大きさ：直径16.7cm・高さ18.2cm

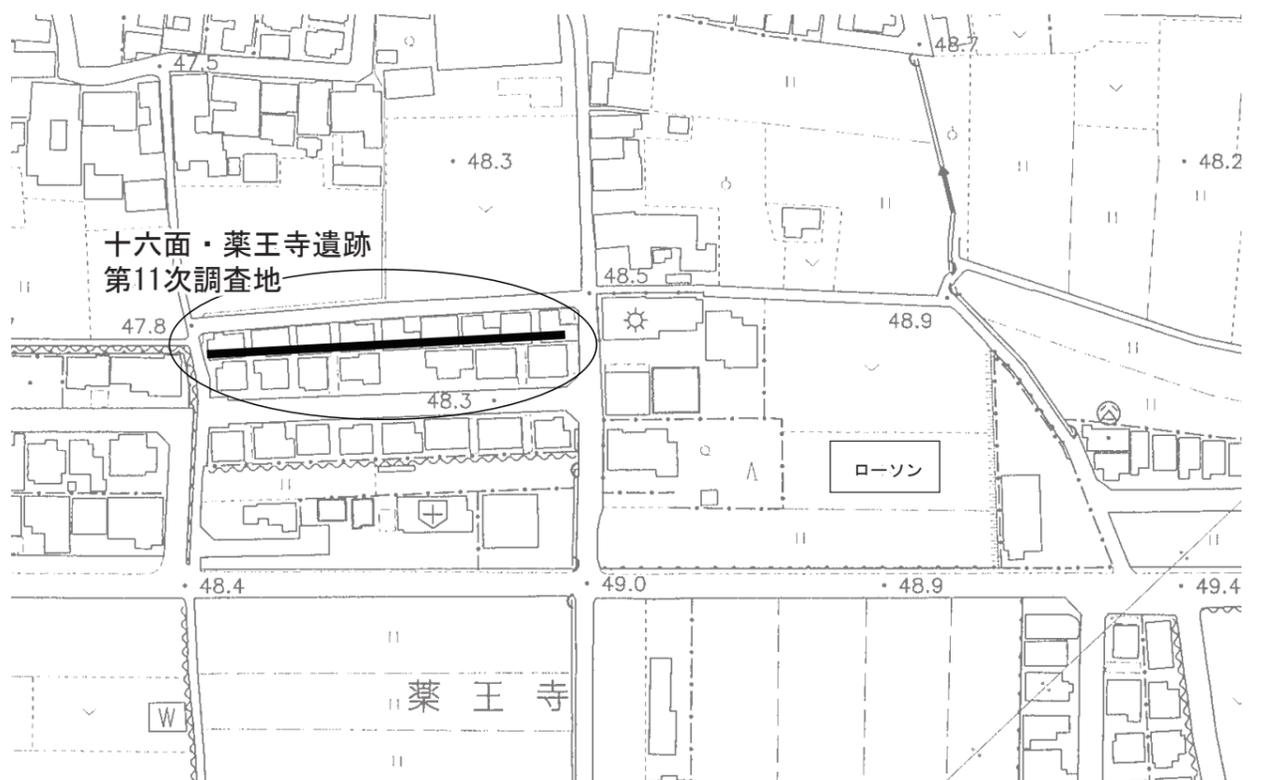
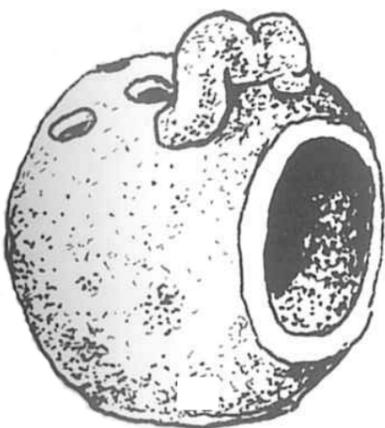
出土年：1994年

時代：古墳時代初頭

小型の鉢にずきんじょう頭巾状の覆いおおが取りつく少し変わった形をした土器があります。これは手焙火鉢に似ていることから手焙形土器と呼ばれています。実際の手焙火鉢のように中に火を灯して使用していた可能性も考えられますが、内面にススが付着する例は少なく、用途は詳しく分かっていません。全体を文様で飾るものが多いこと、出土例が多くないことから、さいし祭祀に関係している特別な土器であると考えられます。弥生時代後期から古墳時代初頭の短い期間に作られました。

展示している手焙形土器はえんけいしゅうこうぼ円形周溝墓から出土したもので、全体に文様が施されています。お墓に供えるなど何らかの祭祀が行われたのかもしれませんが。

手焙り



参考：中林啓治・岩井宏實  
『ちよっと昔の道具たち』 河出書房新社